

# 月刊『腫瘍内科』投稿規定

(2025年10月29日改訂)

## <編集顧問>

秋田 弘 俊	石岡 千加史	大津 敦	小林 幸 夫
西條 長 宏	佐伯 俊 昭	田村 研 治	中川 和 彦
古瀬 純 司	南 博 信		(五十音順)

## <編集委員長>

大江 裕一郎

## <編集委員>

安藤 雄 一	池田 公 史	勝俣 範 之	神田 善 伸
北野 滋 久	河野 隆 志	後藤 悌	高野 利 実
高橋 俊 二	廣橋 猛	吉野 孝 之	(五十音順)

腫瘍内科領域に関する論文を募集します。投稿に際しては、下記の投稿規定に従ってご執筆ください。

## 《原著・投稿規定》

- 1) オリジナルの研究および症例報告を主とし、他誌に掲載されていないものとする。
- 2) 執筆要項は下記の通りとする。  
研究 本文・文献は8,000字以内 写真・図・表8個以内(組み上がり6頁まで無料)。  
症例 本文・文献は6,000字以内 写真・図・表6個以内(組み上がり5頁まで無料)。  
なお、薬剤に関する Pharmacology, Pharmacokinetics, Pharmacodynamics, Pharmacotherapeutics, または前臨床試験および Phase I, Phase II, Phase III, Phase IV の臨床試験成績をまとめた論文は薬理扱いとし、全頁有料とする。
- 3) 原稿はパソコンまたはワープロで横書きとし、専門用語以外は当用漢字、現代仮名遣いを用い、句読点は正確に書くこと。また、印刷原稿とともに、使用機種およびアプリケーション名、ファイル名を明記した本文テキスト・写真・図・表の電子ファイルを同封すること(E-mailによる送付は不可)。
- 4) 表題、著者名、所属は本誌の体裁にならって和英併記、また、必ずパソコンまたはワープロで400～600語の英文抄録を添付し、5項目以内の Key Words を英語で指定すること。
- 5) 外国語の固有名詞(人名、地名)は原語のまま用いる。ただし、日本語化しているものはなるべくカタカナとする。商標薬品名<sup>®</sup>、その他の固有名詞の頭文字は大文字とするが、文中の外国語単語(病名、その他)の頭文字はドイツ語名詞を除きすべて小文字とする。
- 6) 数字は算用数字を用い、度量衡単位はCGS単位で、m, cm, mm, cm<sup>2</sup>, L, dL, mL, kg, g, mg などとする。
- 7) 写真・図・表には必ず表題(必要に応じて説明)をつける。また、組織標本には染色法と倍率をつける。写真は手札型(縦10.8 cm×横8.25 cm)以上の大きさで鮮明であること。なお、原寸大の製版を必要とする場合はその旨を明記のこと(21 cm×14 cmを限度とする)。図版は原則として白黒とする。カラーでの掲載を希望する場合は有料(1点5～10万円)とし、トレースを要する図はトレース料(1点5千～1万円)を申し受ける。他誌より写真・図版を転載する場合は権利者の許諾を得た上でその旨を明記する。
- 8) 文献は本文に用いられているもののみをあげ、引用番号は本文の引用順とし、本文中の引用箇所には必ず肩番号を付すこと。Submitted/in preparation など、掲載が確定していない論文の引用は原則不可とする。また、文献の書き方は下記のように統一し、原則として表記法はバンクーバースタイルに準じ、欧文雑誌の略名は Index Medicus に従うこと。  
<雑誌>著者氏名。題名一副題一。誌名 西暦発行年; 巻数: 起始頁。  
<書籍>著者氏名。書名。版数。発行地: 発行所名; 西暦発行年。引用頁。編集書籍は、邦文の場合は例5)、欧文の場合は例11)に従うこと。引用文献の著者氏名、編者氏名は、4名以内の場合は全員を書き、5名以上の場合は3名連記の上、ほか、あるいは et al. とする。文献の表題は副題を含めてフルタイトルを記載し、学会発表の抄録を引用する場合は表題の最後に[会]、欧文発表の場合は[abstract]を付すこと。その他、以下の例に従って誤りのないよう記載すること。文献規定が守られていなかったり引用の誤りがある場合は、採用されないことがあるので十分注意すること。  
例 1) 朴 雲峰, 東條有伸, 浦部晶夫, ほか。遺伝子組換え G- および GM-CSF の白血病性幹細胞に対する効果。日本血液学会雑誌 1988; 51: 1115。  
2) 増田道彦, 鯨島勇一, 和田真紀夫, ほか。悪性リンパ腫に対する MACOP-B 療法の効果 [会]。臨床血液

- 1989; 30: 1505.
- 3) 吉崎和幸. リンパ球増殖性疾患とサイトカイン. 臨床免疫 1990; 22: 260.
  - 4) 古川哲雄. ヤススの顔. 東京: 科学評論社; 1992. p. 53.
  - 5) 下山正徳, 木村禰代二. 抗白血病剤の殺細胞作用に及ぼす濃度因子と作用時間. 脇坂行一・編. 白血病の化学療法—基礎と臨床—. 東京: 科学評論社; 1976. p. 196.
  - 6) Sherr CJ. Colony-stimulating factor-1 receptor. Blood 1990; 75: 1.
  - 7) Imbach P, Barandum S, d'Apuzzo V, et al. High-dose intravenous gammaglobulin for idiopathic thrombocytopenic purpura in childhood. Lancet 1981; 1: 1228.
  - 8) Strober S, Hertel-Wulff B, Schwadron RB. Role of natural suppressor cells in bone marrow transplantation. Transplant Proc 1987; 19(6 Suppl 7): 88.
  - 9) Levinson B, Lakich D, Silvera P, et al. A gene contained with a factor VIII intron is identified by a CpG island[abstract]. Am J Hum Genet 1988; 43: A192.
  - 10) Wintrobe MW. Clinical Hematology. 7th ed. Philadelphia: Lea & Febiger; 1974. p. 41.
  - 11) Barcos MP, Lukes RJ. Malignant lymphoma of convoluted lymphocytes: a new entity of possible T-cell type. In: Sinks LF, Godden JO, editors. Conflicts in Childhood Cancer. New York: Alan R. Liss, Inc.; 1975. Vol. 4, p. 147.
- 9) 投稿される論文の内容に関して利益相反(COI)がある場合には, 論文末尾にその旨を明記する[「日本医学会 COI 管理ガイドライン」(<https://jams.med.or.jp/guideline/index.html>)に準拠]. また, 企業が共著者として関与している場合は, 当該企業の研究への関与・役割(資金提供, データ解析, 原稿作成支援など)についても明記すること. 投稿論文における倫理的配慮として, 平成16年4月6日外科関連学会協議会公表の「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」を遵守することとする(<https://www.kahyo.com/guidelines/patient-privacy>).
- 10) First author には掲載誌1部を無料進呈する. 別刷を希望する場合は50部単位で実費作成するので, 著者校正の際に申し込むこと.
- 11) 刷り上がり頁が一定限度(研究6頁, 症例5頁)を超える場合は超過料金(1頁1万円)を著者負担とする.
- 12) 欧文の原稿は受け付けない.
- 13) 投稿論文は, 編集委員会が選定した査読者が査読(peer review)を行い, 採否を決定する.
- 14) 掲載を急ぐ場合は特掲制度を利用すること.
- 15) 原稿は書留郵便で(〒101-8531 東京都千代田区神田司町2-10-15 科学評論社「腫瘍内科」編集委員会)宛に送ること. 査読の都合上, 原稿のコピー1部を必ず同封すること(郵便事故に備えて, 論文のコピーを手元にも保存されるようすすめる). 投稿は当社WEBサイトからも受け付けている(<https://www.kahyo.com/contribution>).

### 《Brief Clinical Notes・投稿規定》

《原著・投稿規定》に準ずるが, 以下の点が異なる.

- 1) 本欄は, 研究および症例報告に限る. かつ, 他誌に掲載されていないものとする. Originalityの高い速報もしくは予報的な報告を目的とする. 本欄に掲載された後に, 同じ内容の原著は本誌では採択しない.
- 2) 執筆要項は次の通りとする. 本文・文献は2,800字以内, 写真・図・表は2個以内(組み上がり3頁まで無料).
- 4) 英文抄録は不要. 他は同じ.

### 《総説・投稿規定》

《原著・投稿規定》に準ずるが, 以下の点が異なる.

- 1) 本欄は, 腫瘍内科学上の問題について最近における内外の知見を総説的に記述したものとする. 著者の原著報告であってはならない.
- 2) 執筆要項は次の通りとする. 本文・文献は16,000字以内, 写真・図・表は計8個以内(組み上がり15頁まで無料, ただし薬剤に関するものは有料).
- 4) 英文抄録は不要. 8項目以内のKey Wordsを英語で指定すること. 他は同じ.

### 《腫瘍薬理・投稿規定》

《原著・投稿規定》に準ずるが, 以下の点が異なる.

- 1) 本欄は, 腫瘍疾患の治療薬や検査薬のPharmacology, Toxicology, Pharmacokinetics, Pharmacodynamics, Pharmacotherapeutics, または前臨床試験およびPhase I, Phase II, Phase III, Phase IVの臨床試験成績をまとめた論文とする.
- 2) 執筆要項は次の通りとする. 本文・文献は20,000字以内, 写真・図・表は20個以内. 英文抄録, Key Wordsは《原著・投稿規定》にならって必ず添付すること.
- 11) 本欄掲載論文に限って特別掲載扱いかつ全頁有料とする.

## 《記録・投稿規定》

《原著・投稿規定》に準ずるが、以下の点が異なる。

- 1) 本欄は、腫瘍内科学に関する研究会や検討会・討議会、座談会などの内容を記述したものとする。
- 2) 執筆要項は各主催者の方針に従う。
- 4) 会名は和英併記とし、開催日時、開催場所を必ず記載する。開催後1年以上経過したものは不可。英文抄録、Key Wordsは不要。
- 11) 本欄は全頁有料とする。

## 《原典・古典の紹介・投稿規定》

《原著・投稿規定》に準ずるが、以下の点が異なる。

- 1) 本欄は、腫瘍内科学上の古典・原点(疾患、徴候、症候群、検査所見、病理所見、治療法、その他)を紹介し、解説を加えたものとする。
- 2) 執筆要項は次の通りとする。本文・文献は6,000字以内、写真・図・表は計3個以内(組み上がり5頁まで無料)。写真・図・表はなるべく原点・古典そのものから複写したものをを用いること(出典を必ず明記)。
- 4) 英文抄録、Key Wordsは不要。他は同じ。
- 8) 文献の書き方は《原著・投稿規定》に準ずるが、雑誌の場合には、著者(全員)、題名、雑誌、西暦発行年、発行月または月日；巻(号)；起始頁-終頁のように完全なものとする。  
例 1) West WJ. On a peculiar form of infantile convulsions. Lancet 1841 Feb 13; i(991): 724-5.  
2) 呉 秀三. トムゼン氏病ノ一種. 東京医学会雑誌 1892; 6(11): 205-14.

## 《人・土地・業績・投稿規定》

《原著・投稿規定》に準ずるが、以下の点が異なる。

- 1) 本欄は、腫瘍内科学上の傑出した内外の人物の伝記やその業績、ゆかりの深い土地、研究所、病院等について読者に紹介することを目的とする。
- 2) 執筆要項は次の通りとする。本文・文献は8,000字以内、写真・図・表は計10個以内(組み上がり6頁まで無料)。
- 4) 英文抄録、Key Wordsは不要。他は同じ。

## 《眼で見る腫瘍内科・投稿規定》

《原著・投稿規定》に準ずるが、以下の点が異なる。

- 1) 本欄は、腫瘍内科学上の典型的な写真(患者の症候、内視鏡、X線、超音波、CT、血液像などの検査所見、剖検所見、組織所見、その他)の提示を主な目的とし、それに簡単な解説を加えたものとする。したがって、原著研究および症例報告の形式とはならないこと。他の著者の表を引用する場合には必ず出典を明記すること。
- 2) 執筆要項は次の通りとする。本文・文献は1,600字以内、写真(原則として白黒写真)は1～4個(組み上がり3頁まで無料)。
- 4) 英文抄録、Key Wordsは不要。他は同じ。

## 《数字で見る腫瘍内科・投稿規定》

《原著・投稿規定》に準ずるが、以下の点が異なる。

- 1) 本欄は、腫瘍内科学上の種々の統計、頻度などを数字や％によって表示することを主な目的とし、それに簡単な解説を加えたものとする。なるべく内外の統計を併記した形式が望ましい。
- 2) 執筆要項は次の通りとする。本文・文献は3,200字以内、表は8個以内(組み上がり4頁まで無料)。
- 4) 英文抄録、Key Wordsは不要。他は同じ。

## 《Letters to the Editor・投稿規定》

《原著・投稿規定》に準ずるが、以下の点が異なる。

- 1) 本欄は、日常の診療・研究活動上得られたヒント、思いつき、発見、反省点、誤診しやすい盲点、薬の副作用などや、本誌に掲載された論文に対する各種意見(追加、討議、希望など)を書簡の形式(口語体)で書いたものとする。将来、文献として引用価値のあるものを採択する方針である。
- 2) 執筆要項は次の通りとする。本文は1,200字以内、写真・図・表の挿入は不可(組み上がり1頁まで無料)。
- 4) 表題、投稿者名は本欄の体裁にならって和英併記。英文抄録、Key Wordsは不要。他は同じ。